

# 2025年度（令和7年度）事業計画書

社会福祉法人すこう福祉会  
ワークハウスわらしべ  
わらしべ相談支援事業所  
わらしべホーム

法人	法人理念に基づき、安心安全な施設運営に努める。
	利用者のニーズが多様化、複雑化している。 利用者のニーズに合った事業が行えるよう、情報収集を行う。
	防災対策、感染症対策、虐待防止対策の委員会を法人全体で行い、対策を強化する。
	法人全体の職員人材確保をし、適正な職員配置を行う。
	建物、備品の老朽化、経年劣化での修理や買い替えに対し、更新の計画を立て、補助金等の活用をする。 点検が必要な設備、備品は定期的に業者に点検を依頼する。 突発的な修繕に対して、予算を計上しておく。
	ワークハウスわらしべが開所20周年を迎える。記念行事を行う。
就労継続支援事業 B型 生活介護事業	正規職員10名、パート職員12名 各部署に必要な応じた職員配置を行う。
	就労継続支援事業B型 定員20名 登録者25名
	生活介護事業 定員20名 登録者30名
	管理者会議、職員会（月1回）各種ミーティングの継続。
	外部研修、資格取得のための研修への出席。
	年2回の避難訓練実施。 緊急時に備え、業務継続計画を職員間で確認し、必要に応じた見直しを行う。 緊急時に一斉連絡ができる連絡ツールを検討、開始する。
	修繕箇所が多くなっている。設備等、点検を行いながら、長期間使用可能できるように使用していく。
	とうふ製造部門は、販売数が減少傾向になっている。チラシやホームページで宣伝に力を入れる。 おぼろ豆腐の製造量の製造体制と販路拡大を検討する。 機械修理を行う業者の模索。
	軽作業部門は、現状の軽作業が減少傾向となっている。新規の作業の予定があり、利用者の工賃が維持できるよう新規作業を進めていく。
	印刷部門は毎月安定して行える作業を模索する。物価高騰で経費が高くなっている。少しでも経費を抑えられるよう、外注先を検討していく。
	入浴支援は安全に入浴介助が行えるよう、介護技術の向上に努める。 利用者の重度高齢化に対し、福祉用具を使用し、利用者と職員に負担のない介護を行う。
	年間で行事を計画をし、余暇支援を行う。
	利用者に安心安全な支援を行えるよう、報告、相談を随時行い、必要な場合は関係機関と連携を行う。
相談支援事業	送迎者が増加しているため、随時送迎体制を見直し、スムーズな送迎に務める。 送迎車両の手配が厳しくなっているため、計画的に車両の手配を行う。 安全運転講習を行う。
	専任職員1名、兼務職員1名
	地域で相談支援専門員の不足が切実な問題となっている。法人内でできることを検討していく。
	利用者に寄り添い、地域で希望する生活を継続していけるよう支援する。

共同生活 援助事業	共同生活援助事業 定員 5 名 現在利用者 5 名
	ホーム内の改修工事を行い、入居者の 1 名増員を行う。
	正規職員 3 名（兼務 2 名） パート職員 1 2 名（兼務 2 名） ワークハウスわらしべとの兼務職員を増員し、職員体制を整備する。。 管理者、サービス管理責任者を交替。
	早番、遅番、夜勤の職員体制を継続し、安心して生活できる場とする 利用者と職員の信頼関係維持に努め、利用者と話し合いを持ちながら 充実した生活が出来るよう支援する。
	利用者の健康、衛生面に注意し、食事提供を行う。 食事提供は、食材を注文、配達していただく業者に依頼していく
	医療機関と連携し利用者の健康状態を維持できるよう、通院の付添、相談 等を行う。 緊急時の対応について、利用者、ご家族と相談し書面にしておく。
	職員会、ミーティングの実施。
	食費、水道光熱費、日用品費が物価高騰の影響を受けている。6 カ月ごと に清算し、適切な費用を検討していく。
	年 2 回の避難訓練実施。夜間想定 of 訓練を行う。 緊急時に備え、業務継続計画を職員間で確認し、必要に応じた見直しを行 う。
	利用者の希望や意見を傾聴し、ご家族との連絡、調整に努める。 関係機関との連携を行いながら、安心して生活できる場としての役割を担 う。